

2013年度 第3回

日本社会福祉学会関東地域部会運営委員会・議事録

日時：2013年 11月 20日 水曜日 18:30-21:00

場所：日本社会事業大学文京校舎202教室

出席者(敬称略)：

大島 森田 福山 荒井 小野 齊藤 佐藤 田嶋 山田 宮島 贅川

報告：

1. 各部会活動報告

- ・ホームページ・ニューズレター ・「社会福祉学評論」編集委員会 ・その他
- 以下の議題の記録参照

議題：

1. 2013年度の関東部会研究大会について

(1)日程：2014年3月1日 土曜日、開催地：日本社会事業大学、実行委員長：未定

(2)大会テーマ：社会福祉学からの『発信力』

→2011年度のテーマに立ち返って行く。方法論にフォーカスを当てることができればと考える。東日本大震災の経験をどういう切り口で問題解決に向けて行くのかということも含めて社会福祉学からの発信としたい。過去3年を振り返る総括の形としたい。

(3)記念講演：小原真知子先生に依頼(テーマ：要介護高齢者の退院援助に有効なアセスメント法の開発とその活用～社会にインパクトを与える研究方法論の視点から～)

(4)シンポジウムテーマ

社会福祉学からの『発信力』(その2)

～社会にインパクトを与える社会福祉学研究とその方法論～

【シンポジスト】

① 大島巖氏(日社大)：趣旨、位置づけ、枠組み

② 荒井浩道氏(駒沢大学)：

→震災をテーマにした社会福祉学研究の課題について。ニーズオリエンテッドでモデルを構築していく手法

③ 後藤広史氏(日本大学)：

→2011年にシンポジストをしていただいた。8月に博論を本として出版。質的分析を中心に報告をしていただく。

④ 副田あけみ氏(関東学院大学)：

→M-D&Dを用いた実践モデル開発研究(仮)高齢者虐待にどう向き合うか

この手法をどう広く活用していくことができるのか、方法論と絡めて報告をいただけたらと考える。課題に対してどう支援プログラムを組み立てていくか。

* 首都大の室田氏：コミュニティSWのプログラム構築、方法論をまとめているので打診をしたが、学事と重なっており辞退

⑤ 贅川信幸氏(日社大)：

→実践家参画型によるボトムアップでモデルを構築していく手法で研究を行っている。トップダウンで作られた制度の改善アプローチ、実践現場の創意工夫を反映させる。

【コーディネーター】 田嶋氏(文京学院大学)、山田氏(放送大学)

【指定発言】 森田明美氏(東洋大学)、若手研究者

- ・社会福祉学として何を問おうとしているのか、社会福祉学の独自性が問われる。
- ・役に立つための社会福祉学の基盤となる方法論を考えていく必要がある。
- ・実践家、当事者、専門家がどうつながっていくかということが課題となる。
- ・これらの視点を踏まえて先生方に伝えてもらう。

【実行体制】

- ・運営委員を中心に実行体制を作る。贅川先生を中心にマネジメントする。

- ・懇親会の設定を検討する。

2. 研究奨励賞について

- ・昨年度に続き田嶋先生、小野先生を中心に担当（選考委員、選考方法など）。
- ・審査は教員と院生ではレベルが違うので同じフィールド(基準)に入るのは限界がある。他学問領域、近接領域であっても発表者は会員となっているので対象になる。
- ・若手の報告を表彰することを目的に、指標を作成し選考方法を明確にする必要がある
→検討課題

3. 社会福祉学評論の投稿状況、編集、査読体制について

- ・今年度 新規投稿2件。
- ・座長推薦論文に、投稿を促すメールを4名に送信、2名より近日中に投稿する旨の返信あり。
- ・現在再審査中 2件。
- ・昨年度、5件の投稿。近日中に2本目が掲載予定。
- ・投稿本数が少ない。投稿の促しを周囲にしていきたい。
- ・親学会の投稿件数は維持されている。おおよそ年間100本。
- ・若手が投稿意欲を高められるよう、速やかな査読の方針を打ち出す。
- ・担当編集委員が、ネットワークの中で査読を依頼していく必要があるのではないか。
- ・査読つきは、若手に求められているので、門戸は広くした方が良い。
- ・教育的な査読を心がける必要がある。

4. 広報関係の取り組みについて

- ・ニューズレター：今年度もニューズレターを発行

【内容】

- ・2012年度の関東部会の報告：山田氏
- ・巻頭言：大島氏
- ・社会福祉学の今後のこと：原田氏、齊藤氏
- ・ホームページ・広報のこと、奨励賞のこと：荒井氏
- ・社会福祉学評論：菱沼氏
- ・他領域で原稿をいただくことを検討

【今後の予定】

- ・年内に原稿を集めて、年明けには郵送できるようにする。
- ・関東大会の時に、参加者アンケートを実施して今後の関東部会の運営に反映していきたい。

5. ホームページに関する課題

- ・1日100件前後のアクセスがある。
- ・D論審査、退官講演などの情報があれば、掲載するようにする。
- ・関東部会の案内を早めに出す。奨励賞のことも記載する。

6. 来年度の関東部会の運営、運営委員の選定など

- ・関東部会理事の改選：来年3月までには決めておく必要がある。正式な就任は来年5月となる。今のアクティビティを維持していきたい。
- ・編集委員の体制について：体制が整いつつある。次の事務局との引き継ぎ期間を十分に設ける必要がある。

7. その他

- ・関東大会の締め切りについて：応募は1/31応募締切。抄録の原稿締切は2/10。本数も上限を設ける(査読が必要なため)。

次回： 2014 年 3 月 1 日(土)